

平成29年8月31日

枚方市議会議員 各位

市駅周辺等活性化推進部長

## 枚方市における国・府・市有財産の最適利用に向けた基本的な考え方について

8月23日開催の総務委員協議会で報告いたしました「枚方市駅周辺再整備及び新庁舎整備の検討」の件につきましては、その後、「枚方市における国・府・市有財産の最適利用推進連絡会議」（以下「国・府・市連絡会議」という）を8月25日に開催し、国とは、⑤街区における枚方税務署と市本庁舎による合同庁舎化を、大阪府（以下「府」という。）とは、北河内府民センター（以下「府民センター」という。）の③街区への移転という方向で、基本的な考え方の整理を行いました。今般、その会議も踏まえ今後の方針について報告いたします。引き続き、国・府とは連携・協力して取り組みを進めてまいります。

### 1. 新庁舎整備について

新庁舎整備予定地である⑤街区については、現在、市役所分館や第2分館、府民センター、簡易裁判所、旧枚方区検察庁（現おおがいと小規模保育施設）、枚方税務署、枚方納税協会、枚方医師会館が集積しています。

国や府とともに国・府・市有財産の最適利用・効率的なまちづくりを進めるという観点から、簡易裁判所の移転先の確保や庁舎の仮移転の必要性、道路廃止に伴う仮設インフラの必要性などを念頭に検討を進めました。

その結果、8月25日の国・府・市連絡会議において、府民センターには③街区に移転してもらい、その跡地に国・市の合同庁舎を整備する方向で進めることができ、国・府・市有財産の最適利用・効率的なまちづくりの観点から、最も有効であることを確認しました。

市としても、③・⑤街区に行政機能を再配置することで、③街区の複合的な土地利用の促進と、⑤街区の円滑かつ早期の整備に大きく寄与するものと考えます。その具体的なメリット等については、以下のとおりです。

#### 《府民センターが③街区に移転するメリット》

##### (1)市民・府民の利便性の向上

府民センターは、市だけでなく広く北河内地域（7市）を所管することから、枚方市駅に隣接する③街区に移転することで、市民・府民の利便性の向上が期待できます。

##### (2)賑わいの創出、定住促進及び回遊性の向上

府民センターが③街区へ移転することにより、枚方市駅前の賑わい創出にも寄与するものと考えます。さらには、⑤街区に若年ファミリー層の定住人口の増加や財源確保を図るためにレジデンスを整備すること、あわせて枚方市駅と結ぶデッキを整備す

ることなどで、回遊性をさらに高めるものであり、⑤街区から南側地域の民間活力による土地利用の促進にもつながるものと考えます。

#### (3) 防災リスクの分散

防災機能を有する施設を③街区と⑤街区に整備することにより、災害時対応など防災面でのリスク分散を図ることができます。

#### (4) 跡地活用による⑤街区の円滑な整備

⑤街区の中で簡易裁判所の移転や住環境の整備、さらには災害発生時に活用可能な緑地広場の早期整備が可能となり、国・市の合同庁舎の整備も含めた⑤街区全体の円滑な整備が可能となります。

#### (5) 必要経費の削減

市役所分館の仮移転が不要となることをはじめ、まちづくりに要する経費の削減につながると考えます。

### 《国・市の合同庁舎を整備するメリット》

現在、市有地にある簡易裁判所の課題整理や新庁舎整備とあわせた枚方税務署との一体整備により市民生活の利便性が向上するとともに、本取り組みを全国のモデルケースとして発信することができます。

### 《新庁舎整備に係る進め方》

新庁舎整備については、市が今後策定予定の（仮称）枚方市駅周辺再整備基本計画や市の財政状況等を踏まえ、④街区及び⑤街区を一体とした市街地再開発手法により府民センター跡地を取得し、国・市による合同庁舎の整備を目指します。

## 2. その他

③街区については、枚方市駅（北口）前広場の拡充との連携を図りながら、多様な人々が交流し、市民生活に必要な都市機能を備えた「まちなか交流拠点」として、従来からの民間活力による居住、商業、業務機能に、新たに行政機能を加え複合的な土地利用の促進を目指します。

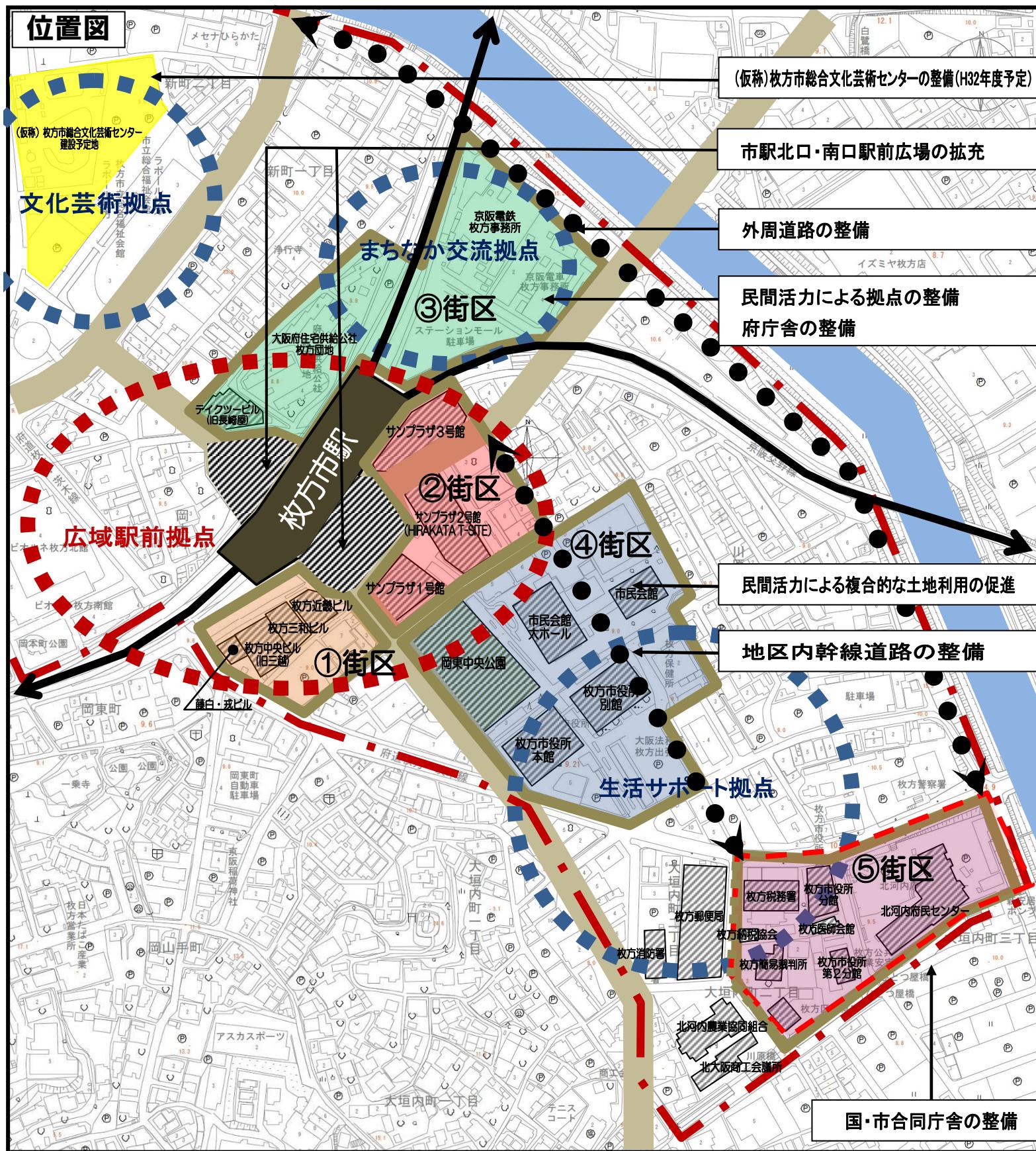
また、北大阪商工会議所においては、③街区への移転の方向でもご検討されています。

⑤街区については、国・市による庁舎の一体的整備と民間施設を整備することにより、「生活サポート拠点」を形成するとともに、駅前から繋がるプロムナードの終着点として人々が憩える空間の形成などを目指します。

## 添付資料

- 1、枚方市駅周辺再整備ビジョンに基づく将来イメージ
- 2、③・⑤街区の土地利用イメージ図（将来イメージ）

## 枚方市駅周辺再整備ビジョンに基づく将来イメージ



### ●枚方市駅周辺再整備に向けたまちづくりの方向性とまちの将来像

・これからの時代に対応した枚方市の中心市街地にふさわしい魅力あふれる賑わいのあるまちの構築を目指すため、枚方市駅周辺再整備に向けたまちづくりの基本コンセプトを「再発進ひらかた 人が主役のゆとりと賑わいのまちへ」とし、駅前広場周辺や市役所付近に集中している人々の行動範囲をさらに広げ、まち全体にゆとりを創出し、人を中心としたまちづくりを進める。

### ●まちの将来像を実現するための取り組み

・駅前広場を中心に商業、業務機能が集積された既存の拠点「広域駅前拠点」をより一層強化するとともに、新たに3つの拠点、「文化芸術拠点」、「まちなか交流拠点」、「生活サポート拠点」を形成することで、まち全体にゆとりを持たせ、回遊性を向上させ、賑わいに繋げていく。

#### <広域駅前拠点>

・駅前広場をはじめとする都市施設の改善や情報システムの充実を図るとともに、老朽化した既存建物の再開発も含めた民間活力によるリニューアル等、商業をはじめとする様々な都市機能の更新とまちの活性化を促進する。

#### <文化芸術拠点>

・(仮称) 総合文化芸術センターを中心とした文化芸術の拠点を形成することで広域的な交流拠点としての充実を図る。

#### <まちなか交流拠点>

・多様な人々が交流し、市民生活に必要な都市機能を備えた拠点として、民間活力による居住、商業、業務、行政機能等の複合的な土地利用を促進する。また、大阪府住宅供給公社枚方団地エリアの再生については、交通環境の改善や、高齢者の都市居住も含めた地域内人口増加への働きかけを行う。あわせて、隣接する天野川の自然環境を活かし、川と一緒にとなった広場等、歩行者の回遊性を高める空間整備に向け関係機関等へ働きかける。

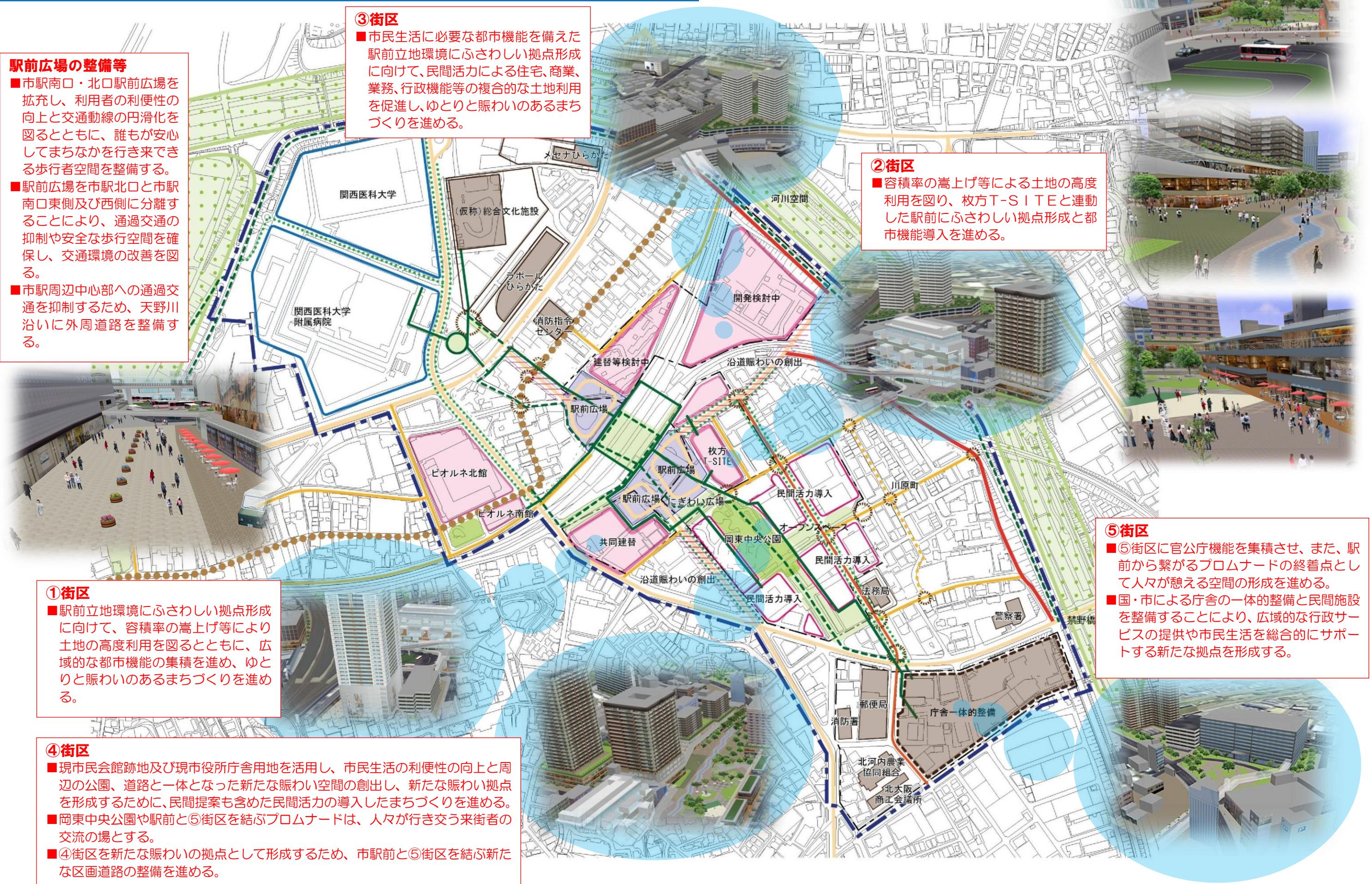
#### <生活サポート拠点>

・広域的な行政サービスの提供や市民生活のサポートを行う拠点として、民間活力の導入により、公園・広場機能を生かした居住、商業、業務機能等の複合的な土地利用を視野に入れ、市役所をはじめとする行政機能を高めることで市民生活の利便性を図る。また、現市民会館跡地の土地利用を図るとともに市役所庁舎の建替えの際には、現市役所用地も有効活用することにより、市民生活の利便性の向上と周辺の公園・広場、道路と一体となった新しい賑わい空間を創出し、まち全体のリニューアルを促進する。

国・市による合同庁舎を整備することにより、広域的な行政サービスの提供や市民生活を総合的にサポートする新たな拠点を形成する。

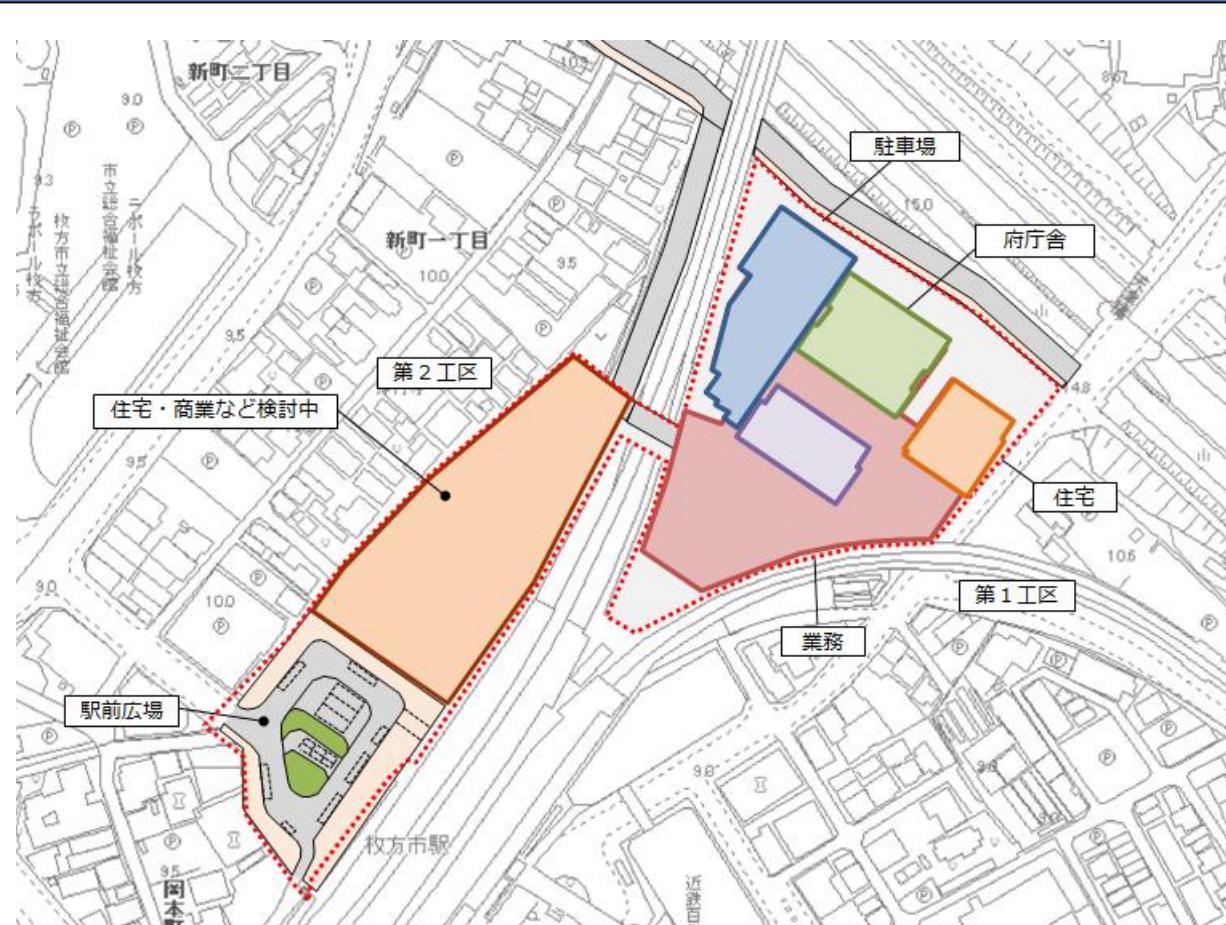
※ 今後、地元の皆様や関係機関と協議し、具体化を図っていく過程で変わることがあります。

## ■枚方市駅周辺再整備ビジョンに基づく将来イメージ

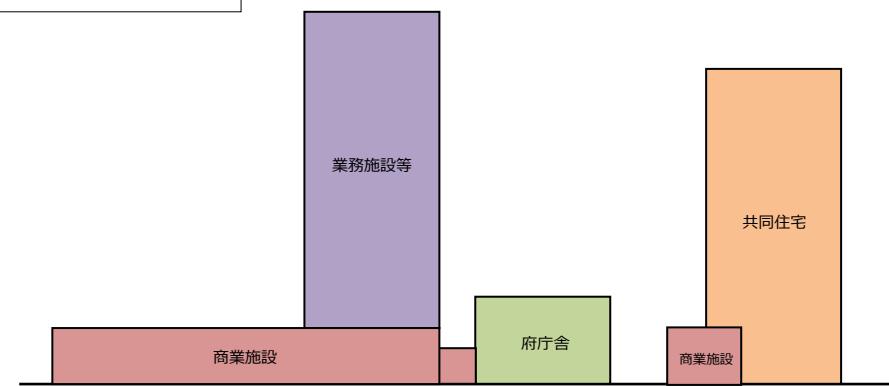


### 枚方市駅周辺再整備 将来イメージ

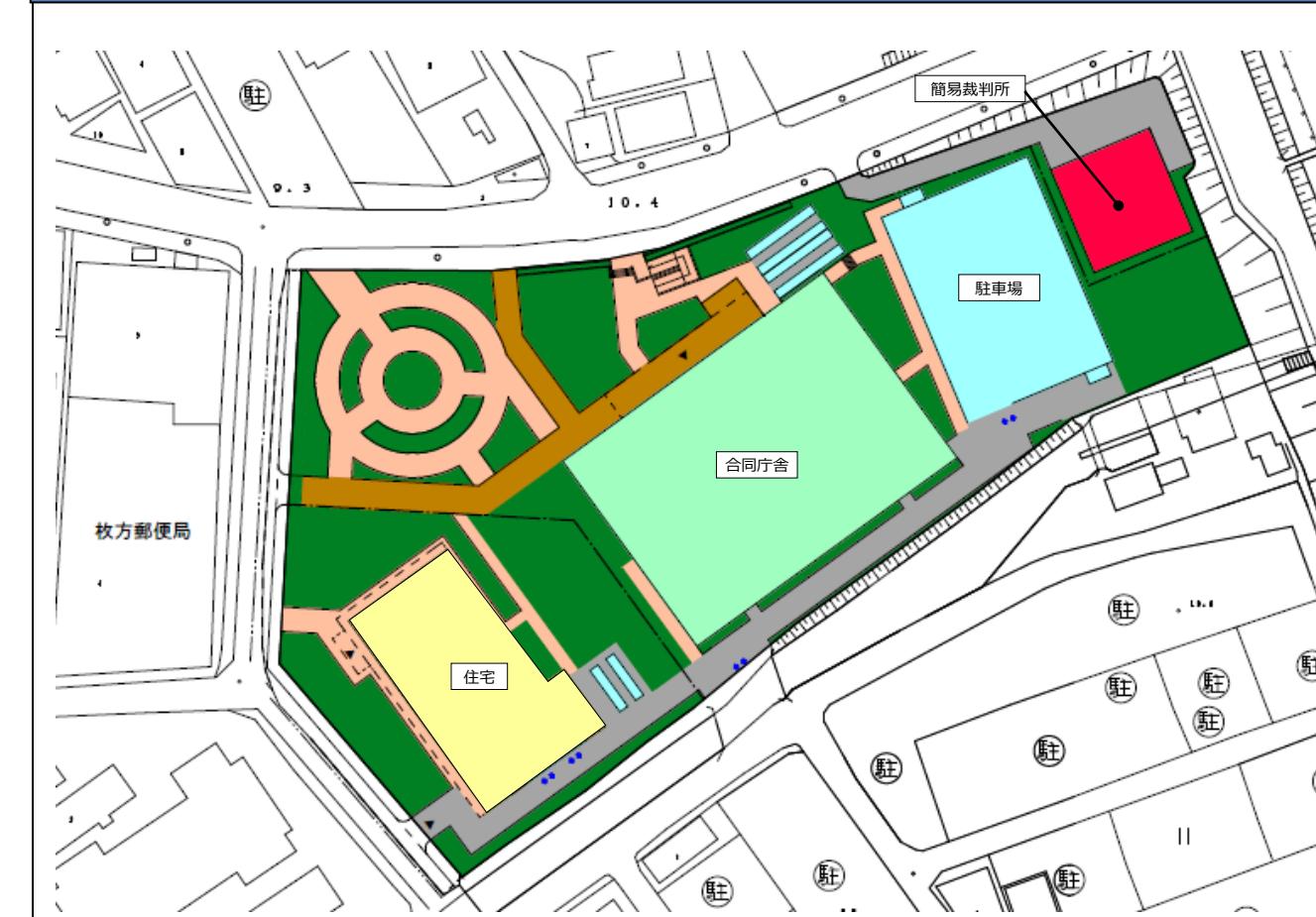
### ③街区の土地利用イメージ図



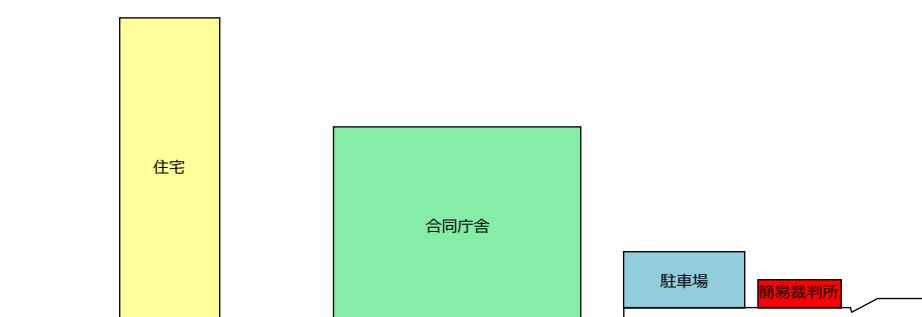
1工区 立面イメージ



## ⑤街区の土地利用イメージ図



## 立面イメージ



※この将来イメージ図は、現在関係者で検討中のものであり、今後変更する可能性があります。